

# 29pmF-376

アムロジピンベシル酸塩の吸着

○渡会 佳夢<sup>1</sup>, 小笠原 卓哉<sup>1</sup>, 徳村 忠一<sup>1</sup>(<sup>1</sup>国際医福大薬)

【目的】アムロジピンベシル酸塩は、高血圧薬として汎用されている化合物である。本化合物は賦形剤によって味が変わるといった情報があり、何らかの吸着現象があるのではないかと考え本研究を開始した。本発表では、実験器具への吸着と、代表的な固形製剤に使用される添加剤への吸着について報告する。

【方法】アムロジピンベシル酸塩 (AML) は、日本薬局方規格に準拠した製造用原薬を使用した。その他ものは日本薬局方規格に準拠した製造用または特級規格の試薬を使用した。HPLC は島津社製 LC-9A を使用した。カラムは YMC AM12S05-1506WT (YMC 社製)、移動相には、アセトニトリル：水：過塩素酸：過塩素酸ナトリウム = 450:550:1:5 を使用した。

## 【結果・考察】

AML 10  $\mu\text{g}/\text{mL}$  の水溶液をガラスの試験管で 5 回移し替えを行い、吸着率を求めた。その結果、吸着率は 49.0% であった。同様の実験をポリプロピレン製 (PP) の試験管で行ったところ吸着率は、3.9% であった。ガラスの試験管で AML の 50% メタノール溶液では、移し替えによる吸着率は 6.9% であった。これらの結果から、AML はガラスに吸着し、PP には吸着しないこと、ガラスへの吸着は 50% メタノール溶液を使用することでほぼ防止できることが明らかとなった。AML 10  $\mu\text{g}/\text{mL}$  水溶液のエキクロディスク E131 への吸着は、4 mL 目の液の吸着率がほぼ 0% となることから、このフィルターの使用に際しては、3 mL の液を採取前に捨てる必要があることが判明した。代表的な賦形剤である、コーンスターチと結晶セルロースについて吸着を検討したところ、それぞれに対する吸着率は 28% と 87.1% であることが判明し、AML の賦形剤に対する吸着が明らかとなった。